

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月16日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園グループホーム
所在地	鹿児島県大島郡知名町知名アギナ1949 (電話) 0997-93-5151
自己評価作成日	平成24年5月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年7月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 日々の生活の中で庭先に見える桜、百合等、四季の草花を楽しまれたり、昔ながらの家庭菜園(パパイア、ハンダマ、アロエ、ねぎ、きんかん等)の収穫を楽しみながら特養の栄養士によるバランス良い朝、昼、夕の食事を「美味しいねえ」と食べられ「長生きしようねえ」と会話弾まれている。
- 健康チェック、体ほぐし、ホーム歌を打楽器(空かん、マラカス鈴、タンバリン等)を手に持ち「できる楽しい」と自然に気持ちがあわき上がって、皆さんが和やかに過ごされている。
- 行事や地域への参加(夏まつり、敬老会、運動会、クリスマス会、島唄、誕生会、参拝、四並蔵神社相撲見学、お墓参り、花見等)ほぼ毎日のように面会者の方とお茶会など深められるようにしている。
- 食堂ホールでは、毎日のバイタルチェック、体ほぐしやテレビ観賞を楽しまれたり、ソファでは利用者同士、仲良く会話されている。また気候にあわせ庭の草花を眺めながら、日向ぼっこやお茶会、花見など室外で楽しめる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体の特別養護老人ホームが隣接にあり、職員研修や災害訓練・緊急時の対応など協力体制が万全で、利用者や職員にとって安心した支援や生活を営んでいる。
- ・職員と一緒に三味線を弾いたり、新聞紙を利用したゴミ入れを作ったり友達と一緒に昔懐かしい塗り絵をしたりと、それぞれ好きな事をしながら脳活性化に向けての支援を行っている。
- ・重度化や終末期に向けた話し合いで、重度化の情報を段階的に記入した書面を通して本人や家族に説明している。重度化に対しての対応で、本人や家族に不安を感じさせないようにしている。
- ・トイレと洗面所が各居室に設置されており、インフルエンザ等の感染症時期には、感染の心配をせずに毎日の排泄や口腔動作、手洗いができ、安心した日々を送っている。
- ・職員は、お互いに意見や相談できるいい関係であり、また、向上心があり資格取得に対して積極的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎年、事業計画資料に掲載し、職員研修会での朗読、説明会議室やホームに掲示してあり職員は理念を共有し、日常業務でその実践に向け取り組んでいる。	事業所内に理念を掲示し、朝礼で唱和し共有している。理念のファイルを目の付く所に置き、職員が確認するようにしている。理念にそって、利用者の意志や決定・自立に向けて、本人のできる範囲で一緒に行う等、支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三人行事で町の無線放送をお願いして、地域住民と交流が図られるよう呼びかけをしている。	特別養護老人ホームと一緒に、敬老会等を開催し、地域からも参加者があり交流を図っている。地域の保育園からは運動会の案内があり、利用者が参加するなど、地域行事に楽しく参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が字婦人会の役員をしたり、ボランティア活動に参加し、地域住民との交流に努めている。学生の職場体験学習の受入や地域住民の研修の受入を積極的にしてグループホームについての理解を深めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会においては、利用者の状況、事業活動経過等を報告し、委員の皆さんが意見や要望が出せる雰囲気づくりに努めている。また意見、要望については全職員で改善策を検討し改善に努めている。</p>	<p>会議では、利用者の状況報告や委員からの意見・情報をもとに、職員会議で検討しケアに活かしている。また、外部評価結果表を作成し、委員に報告し意見交換をしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>電話連絡や認定更新時を通じ連携に努めている。運営推進会議に参加していただき、ご指導を仰ぐように努めている。</p>	<p>町担当者へ更新申請書や認定証等を届ける際に、ホーム運営について情報交換を行っている。また、電話で相談したりアドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束マニュアルに基づき、身体拘束をしなければならない状況をつくらない。五つの基本的ケア（①起きる ②食べる ③排泄する ④清潔にする ⑤活動する）に努めている。</p>	<p>日中の玄関の施錠は行っていない。身体を気遣う行為の中にも本人にとって拘束になる場合等、職員間で身体拘束廃止のマニュアルで研修している。また、職員が、県の研修会で受講した事を伝達講習する等、組織全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>鹿児島県や包括支援センターからの資料等にて合同職員会やグループホーム職員で勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	地域包括支援センターや役場と連絡を行い、必要に応じて指導を仰ぎ、職員会では勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項に添って十分な説明をし、特に利用料や事業所・職員に対する苦情、要望については些細な事でも声かけされるように説明をしている。担当ケアマネジャーや、地区の民生委員等と連携を密にして十分な説明をして理解を深めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり、また日常業務のなかで利用者が職員に何でも話せる信頼関係を築くように努めている。	家族会や面会時に、お茶を飲みながらの会話の中での意見や要望等を検討し、運営に反映させている。また、居室担当者を決め、利用者や家族から気軽に意見・要望等を聞けるように配慮している。玄関に意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の代表者会、職員の全体会等を定期的で開催して職員の意見を運営に反映させるように努めている。	管理者は、職員から行事の反省点を聴取して改善したり、利用者の力量に応じて日常生活上の役割についての提案を支援に反映させている。また、利用者の食事の提供時間帯の提案等を受けて、ケアや業務の改善に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>社会福祉制度、介護保険制度、社会情勢の変化に対応して諸規程の整備を図ると共に安心して働ける環境づくりに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>郡、県の協議会に加入して、各研修会に参加するように努めている。また島内の研修会には夜勤者を除いて全員研修に参加するようにしたり、毎月の合同勉強会などに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>郡、県のグループホームで、相互訪問体験活動を実施したり、介護福祉会のレベルアップ講習会など通して、お互いにサービスの向上を目指して</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまで、本人と良い関係が保てるように受け止め、生活歴や趣味など知り、理解を深め馴染みの会話等を行えるようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の都合に合わせて、話し合いの機会をつくり、心配事や困っていることなど受け止めるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネジャー、管理者計画作成担当で検討、説明し最も適切なサービス提供に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>バックグラウンドの理解を深め、様々な場面で、さりげないケアができるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活暦を大切にしながら一緒に本人を支えていくよう努め、家族会、夏まつり、敬老会、運動会、クリスマス会、年祝い、お墓参りなど関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	字巡りや友人との面会ができるように野外活動を実施している。家族や知人、友人の面会時には、本人の居室にてお茶等を準備して楽しく談話してもらっている。	自宅や墓参り・行きつけのスーパーマーケットでの買い物で知人と逢う機会を作っている。孫の学習発表会に参加したり、帰省している友人との再会や知人の面会時は部屋でゆっくりとお茶を飲みながらの懇談等、馴染みの関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や楽しみを共に関わりあえるように支援しながら、難聴者への個別の説明や、会話ができない方には、様子等から表情が穏やかになれるようにその時を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや食事の介助など、入院時は行ったり家や他の施設に移行された方とは、面会や交流を図り、利用者同士が喜び会話など楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話し合ったり思い等のケアに努めている。困難な場合は家族と話し合い本人の思いに近づけるように（一人ノートや言動の見守り）に取り組んでいる。	利用者と日常の会話の中で、気づいた事は記録し職員で共有している。また、意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報で本人の思いや意向を聞き、職員で話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初に生活暦、趣味、学歴、習慣等情報を収集し、日々の生活に生かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのような気持ちでいるか、どのような支援を行えばいいかなど推察し、本人に確認しながらケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員又は関係者と検討会を持ち、個々のケア記録を作成し、6ヶ月もしくは必要時や状態変化時に見直しを行うよう努めている。	家族の面会時に、本人や家族・職員等で担当者会を行い、介護計画を作成している。6ヶ月を目安にモニタリングを行っている。担当者会を含めケア会議の時にもメンバーの意見を基に見直しをしたり、状況の変化でもその都度見直しを行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のケア記録を個別化し、情報を共有しながらできること。できないことをケア計画書で実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院、特養、地域のケアマネジャーや居宅介護支援事業と必要に応じ、サービスがとぎれないように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>保育園児、小中学生との交流会、消防署との訓練、ボランティア、各団体の慰問などがあり楽しまれている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>専門医（整形外科・眼科・耳鼻科・歯科・皮膚科等）に送迎し受診の支援を行っている。</p>	<p>本人の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ほとんどの利用者は協力医での受診が多い。受診後の結果は家族に報告し、連携をとっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医院の看護師、特養とデイサービスセンターの看護職員と相談しながら支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は面会に行ったり、その都度、情報交換に努め、早期退院への話し合いや、退院時のサマリーなどで情報交換をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合のあり方について、グループホームは看護職員がいないことを伝え、本人や家族の意向を聞き方針を共有し、安心した生活ができるように取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合の事業所の取り組みについて、事業所としてケアできる状態を段階的に記入した書類を家族に提示し説明している。看取りの支援はしていない。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>病院の看護師や、特養、デイサービスの看護師の指示、助言、訓練を行ったり、症状別対応マニュアルを職員会で勉強し身につけるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者と共に、年2回は避難方法を身につけるようにしている。また隣接の特養とも連携を密にしている。	年2回、昼夜間想定で火災避難訓練を想定し、消防署の指導のもと行政・特別養護老人ホームの協力を得て、実施している。また、非常通報装置システムを設置している。非常用食品は常時備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	島言葉など学び、声かけに努めている。排泄は各自のトイレで行い、食事前の手洗いに声かけし、個々にあった声かけをしている。	日々の支援の中で、管理者は言葉かけ等で気づいた時はその都度注意し、ケア会議や職員会議の時に検討している。困難な利用者とのコミュニケーションの取り方について研修を行い、ケアに反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活暦などから本人との会話を深めて、その人の楽しみや思いなどをひきだし、納得しながら暮らしていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り入居者の一人一人の言動を大切に、コミュニケーションを図りながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の望む衣料店や理容所、美容院などに送迎したりしている。自室の洗面台の鏡で「きれいね一等」の声かけに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好きな食べ物（さつまいも・コーヒー・黒糖等）料理の色彩や形、食器、盛り付けなど見て食欲がわくようにしている。	利用者と食材の買物に出かけたり、園庭の畑の野菜を収穫し料理に使っている。また、野菜を切ったり、台拭きやお膳拭きなど、それぞれの力量に合わせて行っている。テラスでの食事や卓上でホットプレートを使用したり、タコ焼きを作ったりしながら、楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立によりバランスの良い食事の取り組みを実施、一人一人の水分、食事の確認チェックを毎食行い、習慣性など考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘導し、口腔清潔の必要性を説明しながら、口腔状態に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えがなくても、しぐさや様子観察から各自のトイレで行い、食事前など時計を見て手を洗いに行きましょうと、スムーズに自室のトイレに行かれています。	日中・夜間とも、自室にあるトイレで排泄を行っている。また、排泄パターンで把握し誘導したり、利用者の言動から察知して声かけを行い、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。昼間は綿パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、医師の指示による暖下剤の服薬を行いながら、運動や飲食物（パイヤ、さつまいも、アロエ茶、スキムミルク等）を工夫し摂っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴して大丈夫かの見極めを本人と話し、好みの着替えの準備をしたり、浴槽内での言動などを大切にして、楽しまれるように努めている。	午前中に入浴前のバイタルチェックを行い、午後からの入浴を一日毎に支援している。状況や希望に応じて、いつでも入浴できる。浴室内で歌を歌いながら手をマッサージしたり、冬場は入浴剤を使用する等の支援を行い、入浴が楽しめるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ、添い寝をしたり言動に付き合ったり、夜間の不眠時は温かい飲物、黒糖など摂ってもらう事で安眠されている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指示や、薬剤表などから病状や効能など照らし合わせている。副作用については回診時や受薬時又は薬の知識編などにて理解を深めるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のバックグラウンドを理解し、一人一人のできる役割、楽しみごとへの取り組み（島唄・島踊り・持ち歌・島料理・お膳拭き・お茶拭き・野菜ちぎり・草取り・編物・縫い物・野菜づくり等）をしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行きたいところを本人や家族から把握（自宅・お墓参り・買物・花見・宇の敬老会・孫の行事・町内観光名所）し出かけ、地域の知人と交流を楽しんでいる。	日常的には、事業所内の畑や近隣の散歩に出かけ、戸外での空気を楽しんでいる。野外活動を月2回計画し、同系列の施設との交流を行ったり、夜にイルミネーションを見たりしている。また、弁当を持って公園に出かけるなど、普段行けない所の外出の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人と家族の希望に応じている。入居者の程度に応じ、お金の所持、使用をしてもらい支援に努めている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>島外の家族へは、電話をかけ一声だけでもと機会をつくっている。また希望に応じ、電話や手紙などやり取りしてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安心して過ごしていただけるようにして、職員でアイデアを出し合いながら、生活暦や季節感を大切にしながら、入居者にとって不快感など招かないように努めている。</p>	<p>ホールは天井が高く、正面がガラス張りで明るい。季節感を味わえるような飾り付けの工夫がしている。利用者全員の馴染みの島唄や童謡等の音楽が流れ、ゆったりとした居心地のよい共用空間である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好きなテレビを一人で楽しんだり、家の光、雑誌、新聞などに目をおしたり、持ち歌を楽しまれたり、入居者同士での会話や、一人で自室にてゆったりとされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と話し合い、使い慣れた好みものを居室に取り入れ、居心地よく過ごしていただけるように努めている。</p>	<p>利用者の馴染みのタンスや衣装ケース・布団等が設置され、壁側には家族の写真等が飾られている。各居室から園庭へ自由に入出りができ、バリアフリーとなっている。また、トイレもあり、安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>調理代、流し台等の高さなど考慮、ホール内は手すり、また各自の居室には洗面台、鏡、トイレやタンスもあり、一人一人の力に応じて、「できること」「わかること」を行ってもらえるように努めている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない